

# 胃癌・食道癌登録レジメン一覧

No.	レジメン名
0001	<a href="#">Low dose FP</a>
0002	<a href="#">FP+RTx(なし)</a>
0003	<a href="#">FP+RTx</a>
0004	<a href="#">NDP+5FU</a>
0005	<a href="#">CDDP+5FU RT</a>
0006	<a href="#">DCF(RTxなし)</a>
0007	<a href="#">Weekly PTX (食道癌)</a>
0008	<a href="#">DTX triweekly(胃癌)</a>
0009	<a href="#">ペムブロリズマブ triweekly(PD-L1陽性食道扁平上皮癌)</a>
0010	<a href="#">ペムブロリズマブ 6週間隔(PD-L1陽性食道扁平上皮癌)</a>
0011	<a href="#">S-1+DTX triweekly</a>
0012	<a href="#">S-1+CDDP</a>
0013	<a href="#">S-1+CPT-11</a>
0014	<a href="#">5DFUR+wPTX</a>
0015	<a href="#">MTX+5FU交換療法</a>
0016	<a href="#">CPT-11 (胃癌)</a>
0017	<a href="#">CAPOX療法</a>
0018	<a href="#">G-SOX療法 triweekly(胃癌)</a>
0019	<a href="#">FOLFOX療法(胃癌)</a>
0020	<a href="#">Nab-PTX triweekly (胃癌)</a>
0021	<a href="#">DTX triweekly(食道癌)</a>
0022	<a href="#">Ramucirumab biweekly</a>
0023	<a href="#">Ramucirumab+weekly PTX</a>
0024	<a href="#">weekly nab-PTX+Ramucirumab</a>
0025	<a href="#">XP+Trastuzumab</a>



# FP+RTx

対象疾患	食道癌
投与間隔	4週1コース

催吐リスク	高度(催吐性)リスク
-------	------------

○レジメン内容(※制吐薬(下記参照)等の内服薬が処方される事があります。)

番号	抗癌剤	薬品名・規格	投与量	手技	投与ルート	点滴時間・速度	投与日															
							1	2	3	4	5	...	28									
RP.1		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	30分	○															
RP.2		生理食塩液	500mL	点滴静注	メイン	24時間	○	○	○	○	○											
	○	フルオロウラシル	700mg/m <sup>2</sup>																			
RP.3		ソルデム3A	1000mL	点滴静注	側管	150分	○															
RP.4		生理食塩液	100mL	点滴静注	側管	30分	○															
		パロノセトロン	0.75mg																			
		デキサート	9.9mg																			
RP.5		生理食塩液	500mL	点滴静注	側管	150分	○															
	○	シスプラチン	70mg/m <sup>2</sup>	投与中はメインを止める																		
RP.6		ソルデム1	1000mL	点滴静注	側管	240分	○															
RP.7		生理食塩液	100mL	点滴静注	側管	30分		○	○	○												
		デキサート	6.6mg																			

## <参考>高度催吐性リスクに対応する標準的制吐療法

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
	抗がん薬投与前				
アプレピタント (イモドカプセル等)	125mg	80mg	80mg		
5-HT3受容体拮抗薬 (グラニセトロン塩酸塩注射液等)					
デキサメタゾン (デカドロン注射液等) (デキサメタゾン錠等)	 (9.9mg)	 8	 8	 8	 8

●制吐療法の一般的な全体像を示したものであるが、個々の症例に応じた柔軟な対応が望まれる。

●各薬剤の推奨用量をダイアグラム内に数値で示した。

# FP+RTx(なし)

対象疾患	食道癌
投与間隔	4週1コース

催吐リスク	高度(催吐性)リスク
-------	------------

○レジメン内容(※制吐薬(下記参照)等の内服薬が処方される事があります。)

番号	抗癌剤	薬品名・規格	投与量	手技	投与ルート	点滴時間・速度	投与日															
							1	2	3	4	5	...	28									
RP.1		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	30分	○															
RP.2		生理食塩液	500mL	点滴静注	メイン	24時間	○	○	○	○	○											
	○	フルオロウラシル	800mg/m <sup>2</sup>																			
RP.3		ソルデム3A	1000mL	点滴静注	側管	150分	○															
RP.4		生理食塩液	100mL	点滴静注	側管	30分	○															
		パロノセトロン	0.75mg																			
		デキサート	9.9mg																			
RP.5		生理食塩液	500mL	点滴静注	側管	150分	○															
	○	シスプラチン	80mg/m <sup>2</sup>	投与中はメインを止める																		
RP.6		ソルデム1	1000mL	点滴静注	側管	240分	○															
RP.7		生理食塩液	100mL	点滴静注	側管	30分		○	○	○												
		デキサート	6.6mg																			

## <参考>高度催吐性リスクに対応する標準的制吐療法

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
	抗がん薬投与前				
アプレピタント (イモドカプセル等)	125mg	80mg	80mg		
5-HT3受容体拮抗薬 (グラニセトロン塩酸塩注射液等)					
デキサメタゾン (デカドロン注射液等) (デキサメタゾン錠等)	 (9.9mg)				

●制吐療法の一般的な全体像を示したものであるが、個々の症例に応じた柔軟な対応が望まれる。

●各薬剤の推奨用量をダイアグラム内に数値で示した。

# NDP+5FU

対象疾患	食道癌
投与間隔	4週1コース

催吐リスク	中等度(催吐性)リスク
-------	-------------

○レジメン内容(※制吐薬(下記参照)等の内服薬が処方される事があります。)

番号	抗癌剤	薬品名・規格	投与量	手技	投与ルート	点滴時間・速度	投与日															
							1	2	3	4	5	...	28									
RP.1		グラニセトロン	3mg	点滴静注	メイン	30分	○															
RP.2		生理食塩液	1000mL	点滴静注	メイン	24時間	○	○	○	○	○											
	○	フルオロウラシル	800mg/m <sup>2</sup>																			
RP.3		生理食塩液	100mL	点滴静注	側管	60分	○															
		デキサート	9.9mg	側管投与中はメインを止める																		
RP.4		生理食塩液	500mL	点滴静注	側管	90分	○															
	○	アクプラ	90mg/m <sup>2</sup>																			
RP.5		生理食塩液	50mL	点滴静注	側管	全開	○															
RP.6		生理食塩液	100mL	点滴静注	側管	30分		○	○													
		デキサート	6.6mg																			
RP.7		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	全開							○									

<参考>中等度催吐性リスクに対応する標準的制吐療法

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
	抗がん薬投与前				
5-HT3受容体拮抗薬 (グラニセトロン塩酸塩注射等)					
デキサメタゾン (デカロン注射液等) (デキサメタゾン錠等)	 (9.9mg)				

●制吐療法の一般的な全体像を示したものであるが、個々の症例に応じた柔軟な対応が望まれる。

●各薬剤の推奨用量をダイアグラム内に数値で示した。

※オキサリプラチン、イホスファミド、イリノテカン、メトトレキサートなど使用時はアプレピタント(イメンドカプセル等)の使用を考慮する。



# DCF(RTxなし)

対象疾患	食道癌
投与間隔	4週1コース

催吐リスク	高度(催吐性)リスク
-------	------------

○レジメン内容(※制吐薬(下記参照)等の内服薬が処方される事があります。)

番号	抗癌剤	薬品名・規格	投与量	手技	投与ルート	点滴時間・速度	投与日										
							1	2	3	4	5	...	28				
RP.1		生理食塩液	1000mL	点滴静注	メイン	24時間	○	○	○	○	○						
RP.2		ソルデム3A	500mL	点滴静注	側管	150分	○										
RP.3		生理食塩液	100mL	点滴静注	側管	30分	○										
		パロノセトロン	0.75mg														
		デキサート	9.9mg														
RP.4		5%ブドウ糖液	250mL	点滴静注	側管	60分	○										
	○	ドセタキセル	60mg/m <sup>2</sup>	輸液ポンプ使用禁													
RP.5		生理食塩液	500mL	点滴静注	側管	120分	○										
	○	シスプラチン	70mg/m <sup>2</sup>														
RP.6		生理食塩液	500mL	点滴静注	側管	24時間	○										
	○	フルオロウラシル	600mg/m <sup>2</sup>	持続点滴													
RP.7		ソルデム1	500mL	点滴静注	側管	90分	○										
				RP.6とRP.7は並列で投与													
RP.8		生理食塩液	50mL	点滴静注	側管	15分	○										
		フロセミド	10mg	RP.6とRP.8は並列で投与													
RP.9		生理食塩液	500mL	点滴静注	側管	24時間		○	○	○	○						
	○	フルオロウラシル	600mg/m <sup>2</sup>	持続点滴													
RP.10		ソルデム1	500mL	点滴静注	側管	90分		○	○	○	○						
				RP.9とRP.10は並列で投与													
RP.11		生理食塩液	100mL	点滴静注	側管	30分		○	○	○	○						
		デキサート	6.6mg	RP.9とRP.11は並列で投与													

## <参考>高度催吐性リスクに対応する標準的制吐療法

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
	抗がん薬投与前				
アプレピタント (イメドカプセル等)	125mg	80mg	80mg		
5-HT3受容体拮抗薬 (グラニセトロン塩酸塩注射液等)					
デキサメタゾン (デカドロン注射液等) (デキサメタゾン錠等)	 (9.9mg)	 8	 8	 8	 8

●制吐療法の一般的な全体像を示したものであるが、個々の症例に応じた柔軟な対応が望まれる。

●各薬剤の推奨用量をダイアグラム内に数値で示した。









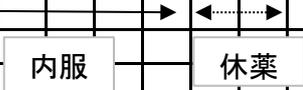
# S-1+DTX triweekly

対象疾患	胃癌
投与間隔	3週1コース

催吐リスク	軽度(催吐性)リスク
-------	------------

○レジメン内容(※制吐薬(下記参照)等の内服薬が処方される事があります。)

番号	抗癌剤	薬品名・規格	投与量	手技	投与ルート	点滴時間・速度	投与日														
							1	2	3	4	...	14	...	21							
RP.1		グラニセトロン	3mg	点滴静注	メイン	30分	○														
		デキサート	6.6mg																		
RP.2		5%ブドウ糖液	250mL	点滴静注	メイン	120分	○														
	○	ドセタキセル	40mg/m <sup>2</sup>	輸液ポンプ使用禁																	
RP.3		生理食塩液	100mL	点滴静注	メイン	全開	○														
内服	○内服	エスワン		経口		1日2回															
				1.25m <sup>2</sup> 未満:40mg/回、1.25~1.50m <sup>2</sup> :50mg/回、1.50m <sup>2</sup> 以上:60mg/回																	



## <参考>軽度催吐性リスクに対応する標準的制吐療法

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
	抗がん薬投与前				
デキサメタゾン (デカドロン注射液等)	 (6.6mg)				

- 制吐療法の一般的な全体像を示したものであるが、個々の症例に応じた柔軟な対応が望まれる。
- 各薬剤の推奨用量をダイアグラム内に数値で示した。

# S-1+CDDP

対象疾患	胃癌
投与間隔	5週1コース

催吐リスク	高度(催吐性)リスク
-------	------------

○レジメン内容(※制吐薬(下記参照)等の内服薬が処方される事があります。)

番号	抗癌剤	薬品名・規格	投与量	手技	投与ルート	点滴時間・速度	投与日													
							1	...	8	9	10	11	...	21	...	35				
RP.1		ソリアセトF	500mL	点滴静注	メイン	120分				○										
RP.2		ソリアセトF	500mL	点滴静注	メイン	120分				○										
RP.3		生理食塩液	100mL	点滴静注	メイン	30分				○										
		パロノセトロン	0.75mg																	
		デキサート	9.9mg																	
RP.4	○	生理食塩液	500mL	点滴静注	メイン	120分				○										
		シスプラチン	60mg/m <sup>2</sup>																	
RP.5		ソルデム3A	500mL	点滴静注	メイン	240分				○										
		フロセミド	20mg																	
		プリンペラン	10mg																	
RP.6		ソルデム3A	500mL	点滴静注	メイン	300分				○										
		フロセミド	20mg																	
RP.7		生理食塩液	100mL	点滴静注	メイン	30分				○	○	○								
		デキサート	6.6mg																	
内服	○内服	エスワン		経口		1日2回														
						1.25m <sup>2</sup> 未満:40mg/回、1.25~1.50m <sup>2</sup> :50mg/回、1.50m <sup>2</sup> 以上:60mg/回														

## <参考>高度催吐性リスクに対応する標準的制吐療法

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
	抗がん薬投与前				
アプレピタント (イメドカプセル等)	125mg	80mg	80mg		
5-HT3受容体拮抗薬 (グラニセトロン塩酸塩注射等)					
デキサメタゾン (デカロン注射液等) (デキサメタゾン錠等)	 (9.9mg)	 8	 8	 8	 8

- 制吐療法の一般的な全体像を示したものであるが、個々の症例に応じた柔軟な対応が望まれる。
- 各薬剤の推奨用量をダイアグラム内に数値で示した。



# 5DFUR+wPTX

対象疾患	胃癌
投与間隔	4週1コース

催吐リスク	軽度(催吐性)リスク
-------	------------

○レジメン内容(※制吐薬(下記参照)等の内服薬が処方される事があります。)

番号	抗癌剤	薬品名・規格	投与量	手技	投与ルート	点滴時間・速度	投与日													
							1	5	...	8	12	...	15	19	...	28				
RP.1		生理食塩液	100mL	点滴静注	メイン	30分	○				○			○						
		ファモチジン	20mg	インラインフィルター使用																
		デキサート	6.6mg																	
		ポララミン	5mg																	
RP.2		グラニセトロン	3mg	点滴静注	メイン	30分	○				○			○						
RP.3		5%ブドウ糖液	250mL	点滴静注	メイン	60分	○				○			○						
	○	パクリタキセル	80mg/m <sup>2</sup>	輸液ポンプ使用禁																
RP.4		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	全開	○				○			○						
内服	○内服	フルツロン	533mg/m <sup>2</sup>	経口		1日3回	↔		↔		↔									
							内服	内服	内服											

<参考>軽度催吐性リスクに対応する標準的制吐療法

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	
	抗がん薬投与前					
デキサメタゾン (デカドロン注射液等)	 (6.6mg)					<ul style="list-style-type: none"> <li>●制吐療法の一般的な全体像を示したものであるが、個々の症例に応じた柔軟な対応が望まれる。</li> <li>●各薬剤の推奨用量をダイアグラム内に数値で示した。</li> </ul>

# MTX+5FU交換療法

対象疾患	胃癌
投与間隔	1週1コース

催吐リスク	軽度(催吐性)リスク
-------	------------

○レジメン内容(※制吐薬(下記参照)等の内服薬が処方される事があります。)

番号	抗癌剤	薬品名・規格	投与量	手技	投与ルート	点滴時間・速度	投与日												
							1	2	3	...	6								
RP.1		生理食塩液	500mL	点滴静注	メイン	120分	○												
		メイロン	40mL																
RP.2		生理食塩液	100mL	点滴静注	側管	15分	○												
	○	メソトレキサート	100mg/m <sup>2</sup>																
RP.3		生理食塩液	50mL	点滴静注	側管	15分	○												
	○	フルオロウラシル	600mg/m <sup>2</sup>	RP.2投与終了1時間後															
内服		ダイアモックス	250mg	経口		1日1回													
				RP.2の30分前と5時間後投与															
内服		ロイコボリン	15mg	経口		2~6回													
				RP.2の24時間後から6時間間隔(2~6回投与)															

<参考>軽度催吐性リスクに対応する標準的制吐療法

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
	抗がん薬投与前				
デキサメタゾン (デカドロン注射液等)	 (6.6mg)				

- 制吐療法の一般的な全体像を示したものであるが、個々の症例に応じた柔軟な対応が望まれる。
- 各薬剤の推奨用量をダイアグラム内に数値で示した。

# CPT-11（胃癌）

対象疾患	胃癌
投与間隔	2週1コース

催吐リスク	中等度(催吐性)リスク
-------	-------------

○レジメン内容(※制吐薬(下記参照)等の内服薬が処方される事があります。)

番号	抗癌剤	薬品名・規格	投与量	手技	投与ルート	点滴時間・速度	投与日											
							1	2	3	4	...	14						
RP.1		グラニセトロン	3mg	点滴静注	メイン	30分	○											
		デキサート	9.9mg															
RP.2		生理食塩液	500mL	点滴静注	メイン	90分	○											
	○	イリノテカン	150mg/m <sup>2</sup>															
RP.3		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	全開	○											

<参考>中等度催吐性リスクに対応する標準的制吐療法

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
	抗がん薬投与前				
5-HT3受容体拮抗薬 (グラニセトロン塩酸塩注射液等)					
デキサメタゾン (デカドロン注射液等) (デキサメタゾン錠等)	 (9.9mg)				
※オキサリプラチン、イホスファミド、イリノテカン、メトトレキサートなど使用時はアプレピタント(イメンドカプセル等)の使用を考慮する。					

- 制吐療法の一般的な全体像を示したものであるが、個々の症例に応じた柔軟な対応が望まれる。
- 各薬剤の推奨用量をダイアグラム内に数値で示した。

# CAPOX療法

対象疾患	胃癌
投与間隔	3週1コース

催吐リスク	中等度(催吐性)リスク
-------	-------------

○レジメン内容(※制吐薬(下記参照)等の内服薬が処方される事があります。)

番号	抗癌剤	薬品名・規格	投与量	手技	投与ルート	点滴時間・速度	投与日								
							1	2	3	4	...	14	...	21	
RP.1		生理食塩液	100mL	点滴静注	メイン	30分	○								
		パロノセトロン	0.75mg												
		デキサート	6.6mg												
RP.2		5%ブドウ糖液	500mL	点滴静注	メイン	120分	○								
	○	オキサリプラチン	130mg/m <sup>2</sup>												
RP.3		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	全開	○								
内服	○内服	カペシタビン	1000mg/m <sup>2</sup>	経口		1日2回									
				Day1夕 ←→ Day15朝											

<参考>中等度催吐性リスクに対応する標準的制吐療法

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
5-HT3受容体拮抗薬 (グラニセトロン塩酸塩注射等)					
デキサメタゾン (デカロン注射液等) (デキサメタゾン錠等)	 (9.9mg)	 8	 8	 8	

- 制吐療法の一般的な全体像を示したものであるが、個々の症例に応じた柔軟な対応が望まれる。
- 各薬剤の推奨用量をダイアグラム内に数値で示した。

※オキサリプラチン、イホスファミド、イリノテカン、メトトレキサートなど使用時はアプレピタント(イメンドカプセル等)の使用を考慮する。



# FOLFOX療法(胃癌)

対象疾患	胃癌
投与間隔	2週1コース

催吐リスク	中等度(催吐性)リスク
-------	-------------

○レジメン内容(※制吐薬(下記参照)等の内服薬が処方される事があります。)

番号	抗癌剤	薬品名・規格	投与量	手技	投与ルート	点滴時間・速度	投与日													
							1	2	3	4	...	14								
RP.1		生理食塩液	100mL	中心静脈	メイン	30分	○													
		パロノセトロン	0.75mg																	
		デキサート	3.3mg																	
RP.2		5%ブドウ糖液	250mL	中心静脈	メイン	120分	○													
	○	レボホリナート	200mg/m <sup>2</sup>																	
RP.3		5%ブドウ糖液	250mL	中心静脈	側管	120分	○													
	○	オキサリプラチン	85mg/m <sup>2</sup>				レボホリナートと同時投与													
RP.4		5%ブドウ糖液	100mL	中心静脈	側管	全開	○													
	○	フルオロウラシル	400mg/m <sup>2</sup>																	
RP.5		生理食塩液	100mL	中心静脈	メイン	指定なし	○													
	○	フルオロウラシル	2400mg/m <sup>2</sup>				インフューザーポンプ使用													

<参考>中等度催吐性リスクに対応する標準的制吐療法

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
	抗がん薬投与前				
5-HT3受容体拮抗薬 (グラニセトロン塩酸塩注射液等)					
デキサメタゾン (デカドロン注射液等) (デキサメタゾン錠等)	 (9.9mg)	 8	 8	 8	
※オキサリプラチン、イホスファミド、イリノテカン、メトトレキサートなど使用時は アプレピタント(イメンドカプセル等)の使用を考慮する。					

●制吐療法の一般的な全体像を示したものであるが、個々の症例に応じた柔軟な対応が望まれる。

●各薬剤の推奨用量をダイアグラム内に数値で示した。



# DTX triweekly(胃癌)

対象疾患	胃癌
投与間隔	3週1コース

催吐リスク	軽度(催吐性)リスク
-------	------------

○レジメン内容(※制吐薬(下記参照)等の内服薬が処方される事があります。)

番号	抗癌剤	薬品名・規格	投与量	手技	投与ルート	点滴時間・速度	投与日													
							1	2	3	4	...	21								
RP.1		グラニセトン	3mg	点滴静注	メイン	30分	○													
		デキサート	3.3mg																	
RP.2		5%ブドウ糖液	250mL	点滴静注	メイン	60分	○													
	○	ドセタキセル	60mg/m <sup>2</sup>				輸液ポンプ使用禁													
RP.3		生理食塩液	100mL	点滴静注	メイン	全開	○													

<参考>軽度催吐性リスクに対応する標準的制吐療法

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
	抗がん薬投与前				
デキサメタゾン (デカドロン注射液等)	 (6.6mg)				

●制吐療法の一般的な全体像を示したものであるが、個々の症例に応じた柔軟な対応が望まれる。

●各薬剤の推奨用量をダイアグラム内に数値で示した。



# Ramucirumab+weekly PTX

対象疾患	胃癌
投与間隔	4週1コース

催吐リスク	軽度(催吐性)リスク
-------	------------

○レジメン内容(※制吐薬(下記参照)等の内服薬が処方される事があります。)

番号	抗癌剤	薬品名・規格	投与量	手技	投与ルート	点滴時間・速度	投与日												
							1	2	3	...	8	...	15	...	28				
RP.1		グラニセトン	3mg	点滴静注	メイン	30分	○						○						
		デキサート	6.6mg	インラインフィルター使用															
		ポララミン	5mg																
		ファモチジン	20mg																
RP.2		生理食塩液	250mL	点滴静注	メイン		○						○						
	○	サイラムザ	8mg/kg	投与時間:初回60分、2回目以降、30分															
RP.3		生理食塩液	100mL	点滴静注	メイン	60分	○						○						
		(3回目以降生理食塩液50mL)	infusion reaction 観察期間(3回目以降投与速度全開可)																
RP.4		5%ブドウ糖液	250mL	点滴静注	メイン	60分	○						○						
	○	パクリタキセル	80mg/m <sup>2</sup>	輸液ポンプ使用禁															
RP.5		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	全開	○						○						
RP.6		生理食塩液	100mL	点滴静注	メイン	30分							○						
		デキサート	6.6mg	インラインフィルター使用															
		ポララミン	5mg																
		ファモチジン	20mg																
RP.7		グラニセトン	3mg	点滴静注	メイン	30分							○						
RP.8		5%ブドウ糖液	250mL	点滴静注	メイン	60分							○						
	○	パクリタキセル	80mg/m <sup>2</sup>	輸液ポンプ使用禁															
RP.9		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	全開							○						

## <参考>軽度催吐性リスクに対応する標準的制吐療法

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	●制吐療法の一般的な全体像を示したものであるが、個々の症例に応じた柔軟な対応が望まれる。 ●各薬剤の推奨用量をダイアグラム内に数値で示した。
デキサメタゾン (デカドロン注射液等)	抗がん薬投与前  (6.6mg)					

# weekly nab-PTX+Ramucirumab

対象疾患	胃癌
投与間隔	4週1コース

催吐リスク	軽度(催吐性)リスク
-------	------------

○レジメン内容(※制吐薬(下記参照)等の内服薬が処方される事があります。)

番号	抗癌剤	薬品名・規格	投与量	手技	投与ルート	点滴時間・速度	投与日										
							1	2	3	...	8	...	15	...	28		
RP.1		生理食塩液	100mL	点滴静注	メイン	30分	○						○				
		デキサート	6.6mg	インラインフィルター使用													
		ポララミン	5mg														
RP.2	○	生理食塩液	250mL	点滴静注	メイン		○						○				
		サイラムザ	8mg/kg	投与時間:初回60分、2回目以降、30分													
RP.3		生理食塩液	100mL	点滴静注	メイン	60分	○						○				
		(3回目以降生理食塩液50mL)		infusion reaction 観察期間(3回目以降投与速度全開可)													
RP.4		生理食塩液	50mL	点滴静注	側管	全開	○						○				
					メイン終了後開始。フィルターより下の側管から投与												
RP.5	○	生理食塩液	50mL	点滴静注	側管	30分	○						○				
		アブラキサン	100mg/m <sup>2</sup>	輸液ポンプ使用禁													
RP.6		生理食塩液	50mL	点滴静注	側管	全開	○						○				
RP.7		生理食塩液	100mL	点滴静注	メイン	30分							○				
		デキサート	6.6mg	インラインフィルター付きルート使用不可													
RP.8	○	生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	30分							○				
		アブラキサン	100mg/m <sup>2</sup>	輸液ポンプ使用禁													
RP.9		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	全開							○				

## <参考>軽度催吐性リスクに対応する標準的制吐療法

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
	抗がん薬投与前				
デキサメタゾン (デカドロン注射液等)	 (6.6mg)				

●制吐療法の一般的な全体像を示したものであるが、個々の症例に応じた柔軟な対応が望まれる。

●各薬剤の推奨用量をダイアグラム内に数値で示した。

# XP+Trastuzumab

対象疾患	胃癌
投与間隔	3週1コース

催吐リスク	高度(催吐性)リスク
-------	------------

○レジメン内容(※制吐薬(下記参照)等の内服薬が処方される事があります。)

番号	抗癌剤	薬品名・規格	投与量	手技	投与ルート	点滴時間・速度	投与日										
							1	2	3	4	...	14	...	21			
RP.1		ソルアセトF	500mL	点滴静注	メイン	120分	○										
RP.2		ソルデム3A	500mL	点滴静注	メイン	120分	○										
RP.3		ソルアセトF	500mL	点滴静注	メイン	120分	○										
RP.4		ソルデム3A	500mL	点滴静注	メイン	120分	○										
RP.5		ソルアセトF	500mL	点滴静注	メイン	120分	○										
RP.6		ソルデム3A	500mL	点滴静注	メイン	120分	○										
RP.7		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	全開	○										
		フロセミド	20mg														
RP.8		生理食塩液	250mL	点滴静注	側管		○										
	○	トラスツズマブ		投与時間:初回:8mg/kg【90分】.2回目以降:6mg/kg【30分】													
RP.9		生理食塩液	100mL	点滴静注	側管	30分	○										
		パロノセトロン デキサート	0.75mg 9.9mg														
RP.10		生理食塩液	500mL	点滴静注	側管	120分	○										
	○	シスプラチン	80mg/m <sup>2</sup>	Rp.4の側管から投与													

【裏面にも記載あり】

<参考>高度催吐性リスクに対応する標準的制吐療法

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
抗がん薬投与前					
アプレピタント (イメドカプセル等)	125mg	80mg	80mg		
5-HT3受容体拮抗薬 (グラニセトロン塩酸塩注射等)					
デキサメタゾン (デカドロン注射液等) (デキサメタゾン錠等)	 (9.9mg)	 8	 8	 8	 8

- 制吐療法の一般的な全体像を示したものであるが、個々の症例に応じた柔軟な対応が望まれる。
- 各薬剤の推奨用量をダイアグラム内に数値で示した。

# XP+Trastuzumab

対象疾患	胃癌
投与間隔	3週1コース

催吐リスク	高度(催吐性)リスク
-------	------------

○レジメン内容(※制吐薬(下記参照)等の内服薬が処方される事があります。)

番号	抗癌剤	薬品名・規格	投与量	手技	投与ルート	点滴時間・速度	投与日													
							1	2	3	4	...	14	...	21						
RP.11		生理食塩液	100mL	点滴静注	メイン	30分		○	○											
		デキサート	6.6mg																	
RP.12		ソルアセトF	1000mL	点滴静注	メイン	240分		○	○											
内服	○内服	カペシタビン	1000mg/m <sup>2</sup>	経口		1日2回	←-----→ ←-----→													
				Day1夕←→Day15朝																

<参考>高度催吐性リスクに対応する標準的制吐療法

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
抗がん薬投与前					
アプレピタント (イメンドカプセル等)	125mg	80mg	80mg		
5-HT3受容体拮抗薬 (グラニセトロン塩酸塩注射等)					
デキサメタゾン (デカドロン注射液等) (デキサメタゾン錠等)	 (9.9mg)	 8	 8	 8	 8

- 制吐療法の一般的な全体像を示したものであるが、個々の症例に応じた柔軟な対応が望まれる。
- 各薬剤の推奨用量をダイアグラム内に数値で示した。